



《会計・税務の知識》 たばこ税について

はじめに

年々禁煙及び分煙の圧力が強まり、喫煙者にとっては肩身が狭い世の中になっています。また、度重なる増税で懐も寂しくなるたばこに関する税金について紹介いたします。

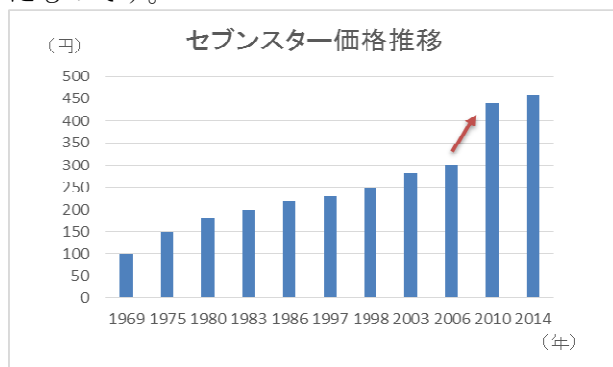
1. たばこ税とは

たばこ税とは、製造たばこの製造者はその製造場から移出した製造たばこについて、また製造たばこを保税地域から引き取る者は、その引き取る製造たばこについて、納めることが義務付けられた税金です。たばこ税は、国たばこ税・地方たばこ税・たばこ特別税の3つからなり、さらに、消費税も課される事から4つの税金が課されます。

上記4つを合わせた税負担率は、加熱紙巻たばこで63.1%、電子たばこの一種であるアイコスで49.2%となっております。

2. 1箱あたりのたばこ税の推移

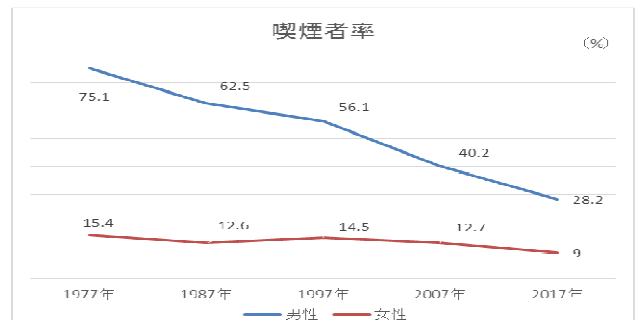
下表は、たばこの販売商品の中で人気のあるセブンスターの1箱あたりの販売価格の推移を表したものです。



1969年に販売が開始され、当時の価格は100円でしたが、年々増税され、2010年には140円の増税がされております。また、現在の販売価格は、販売当時の4倍以上となる460円となっており、1箱当たりおよそ290円の税金が課されることとなります。

3. 喫煙者率の推移

次の表は、日本における男女別の喫煙率の推移を表しております。

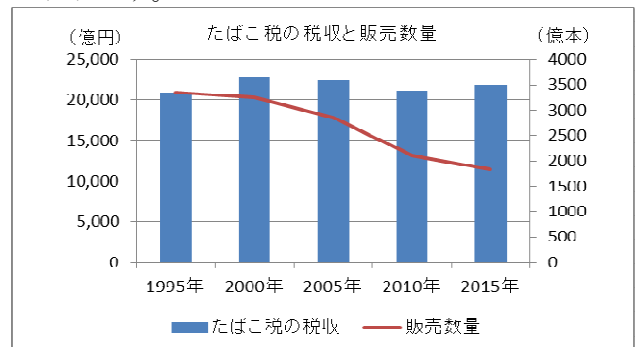


(出典：公益財団法人 健康・体力づくり事業財団)

こちらの推移では、毎年喫煙者率が減少していることがわかります。1977年における男性の喫煙率は75%を超えていましたが、2017年では28%程度、およそ50%喫煙率が減少しております。また、女性の喫煙率の割合も減少傾向にあります。

4. たばこの税収と販売数量の推移

下表は、たばこの税収と販売数量の推移を表しております。



(出典：財務省)

1995年には3,347億本の販売数量がありましたが、2015年では1,833億本まで減少しており、増税により販売数量が減少していることがわかります。対照的に、たばこ税の税収については、2兆円程を推移しており、増税により税収の確保ができていくことがわかります。

終わりに

欧米諸国では、日本よりたばこ税が高水準な国があり、85%も課されている国もあります。2018年度税制改正で加熱式たばこの課税見直しに向けた検討も行われており、日本でさらなる増税がなされるか注視する必要があります。

(担当：高瀬)